



心臓カテーテル手術

# 市民病院通信

## 50歳未満の方も気を付けて 急性心筋梗塞

市民病院管理課 (☎56・3171)

日本人の死亡原因の第2位は心臓病で、多くは急性心筋梗塞とその合併症です。急性心筋梗塞は、患者さんが病院に搬送される前に亡くなるケースがあるなど、発症そのものが直接命に関わる怖い病気です。

### 発症の原因と症状

心臓は、血液を全身に送るポンプの役割をしています。中に大量の血液を蓄えています。中に働くのに必要な酸素や栄養を、周りに広がる血管・冠動脈から取り入れています。この冠動脈が動脈硬化などで狭くなり、最終的に血管が詰まって心筋梗塞が発症します。胸が締め付けられるような激しい痛みを感じたり、発作が30分以上続いたりするなどの症状が現れます。心臓の細胞が失われ、機能が衰えるとともに、不整脈などの後遺症が残ります。

発作の症状が軽く、細胞が失われずに済むのが狭心症です。心筋梗塞へ進行する場合があります。この段階で治療して心筋梗塞に移行させないことが大切です。階段を上ったり、急いで動いたりした時に胸の圧迫感や息切れ、激しい動悸などの症状が出たら、必ず医師に相談して

ください。

近年、急性心筋梗塞を発症する50歳未満の患者さんが増えていきます。当院の過去5年のデータを見ると、患者さんの1割が50歳未満。まだ若いから大丈夫と思っただけではありません。喫煙者や肥満、脂質異常症、糖尿病、高血圧の方は、特に注意してください。

### 心臓カテーテル手術

急性心筋梗塞の治療には、循環器内科医による心臓カテーテル手術が推奨されます。手首や足の付け根の動脈から「カテーテル」と呼ばれる細い管を挿入し、冠動脈の狭くなった部分を広げて、血流を改善させる手術です。当院には6人の循環器内科医がいるため、365日いつでも心臓カテーテル手術ができます。昨年の手術件数は170件。近年増加傾向にあります。経験豊富な循環器内科医師が増えたこともあり、手術が必要な患者さんの数が増えていることが大きな要因と考えられます。

急性心筋梗塞は若年層にも発症し、致死率の高い危険な病気です。気になる症状があれば、気軽に相談してください。

# 市民病院Q&A

**Q** がんの治療薬による副作用が心配です。吐いたり、髪が抜けたりしますか。

がん化学療法看護認定看護師 山中明子

**A** 抗がん剤で治療すると、激しく吐いたり、髪の毛が抜けたりするというのがイメージを持っている方が多くいます。しかし、全ての抗がん剤でこのような副作用が出るわけではありません。薬によって副作用はさまざま、嘔吐や脱毛が起きにくい薬もあります。また、副作用を予防、軽減させる「支持療法」が、以前に比べ積極的に行われるようになっていきます。「自分がどんな抗がん剤治療を受けるのか」「使用する薬でどんな副作用が出るのか」「副作用に対しどんな支持療法があるのか」「自分でできる対処法があるのか」を、納得できるまで医師や看護師から説明を受けてください。



脱毛や爪の色素沈着など、外見に関わる副作用は精神的な苦痛を伴い、生活に影響を与えます。治療のためだからと諦めず、ぜひご相談ください。ウィッグ(かつら)や化粧でのカバー方法などを紹介します。治療は苦行ではありません。必要以上に耐えたり、諦めたりせずに、医師や看護師に声を掛けてください。お待ちしております。

市民病院管理課 (☎56・3171)